

平成 19 年度入学

参加したフィールドスクール：ネパール

調査地：クウェート

平松亜衣子

## 現代クウェートにおけるイスラームと民主化 ——女性の政治参加と市民社会形成をめぐる考察——

キーワード：イスラーム復興運動、市民社会、女性、議会、選挙

### 自分の研究テーマについて

本研究の目的は、現代クウェートにおけるイスラームと議会政治との関係を明らかにすることである。同国では、1961 の独立とともに成人男性すべてに選挙権が与えられ、無記名投票によって選出された議会には立法権が賦与されるなど、中東地域の中でも議会政治が最も発展している国の一つである。そして、2005 年には成人女性にも参政権が与えられた。クウェートでは、1970 年代以降にイスラーム復興運動が活性化し、議会においてもイスラーム主義勢力の躍進が見られた。そして、今日の議会において、イスラーム主義勢力はもっとも大きな政治勢力にまで成長している。

本研究は、「イスラーム市民社会論」を理論的枠組みとして用い、イスラームと民主化といった複雑な問題を、イスラーム的な市民社会の展開という視点から捉えなおすものである。具体的な事例研究として、女性たち自身が政治参加についてどのように考え、行動しているのかを明らかにするために、イスラーム復興運動の中の女性支部に着目した考察を行っている。

### フィールドスクールから得られた知見について

今回のネパールフィールドスクールでは、研究者と現地で活動する社会運動家、そして日々の生活を送りながら、自らの生活や村全体の状況をよいものにしていこうとしている人々との対話が大きなテーマであった。

具体的には、現地で組織された NGO などの社会活動家、大学などの教育機関、そして、NGO や国際連合を受け入れることによって、村に灌漑システムを設置し、それを利用して水力発電を起し、識字教室を実施する村民たちとの交流が行われた。



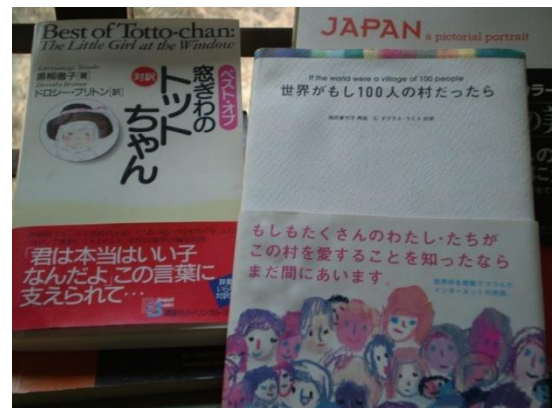
4 日目：現地の社会活動家による講義



4日目：講義をしてくれた活動家たち

社会活動を行っている人々は、講義のなかで参加した院生たちにネパール社会の現状と、どのような社会改革が必要とされているのか、そして実際に彼らの活動がどのような成果をあげ、どのような困難に直面しているのかを語ってくれた。村民たちとの交流では、村民たちは率直で現実的な生活改善への想いを語り、そして私たちのような外部の人間がなぜ自分たちと接触しようとするのか、その動機について尋ねた。

ネパールは、国連をはじめとして、アメリカや日本の政府や NGO が積極的な援助を行ってきた国のひとつである。そのなかで、地域住民と援助側との間の利害の不一致や意思疎通の不十分さという問題は、これまでも真剣に議論されてきた。地域研究を行う者にとって、自らがフィールド調査で求めることと、地域住民が研究者に求めることが一致するとは限らない。また、両者が一つの目的を共有しているケースはむしろ稀である。今回のフィールドスクールでは、地域住民と研究者との関わりについて考えさせられる機会となった。



学校の図書室に寄贈された日本の本



また、フィールドスクールに参加した研究者たちも、講義のなかでネパールや南アジア、そして世界の将来を考えるうえで、どのような問題解決が有効か、どのような社会改革の方向性を思考すべきかについて、参加した院生や現地の社会活動家、現地の院生たちに語り、現地の社会活動家たちとの率直な意見交換を行った。研究者の視点と現地住民の視点との間には、もちろんズレが生じる。しかし、そのズレを否定的に捉えず、研究者としての意見を率直に述べ、現地住民たちの意見を自らの理論を再構築するための材料として吸収し、そして彼らから多くを学ぼうとする姿勢は、私自身の地域研究者としてのあるべき姿について考える契機を与えてくれた。

## フィールドスクールで学んだことがどのように研究テーマにいかせるか？

私の研究テーマは、現代クウェートにおいて起きているイスラーム復興運動と議会政治の関係について考察することであった。トピックそのものは、議会政治という制度やイスラーム復興運動という社会現象を扱っているが、実際のフィールドワークの手法は、クウェートで活動を行っている現地活動家や一般の人々を対象とした、対面によるやりとりが中心である。

フィールドワークを行うなかで、時には意見の異なる人々を対象とした調査も必要になる。しかし、互いに意見の違いを認識し、時には疑問をぶつけながらも相手の考えを尊重できなければ、調査は表面的なものに始終し、相手も私に不信感を抱き、長期にわたるフィールド調査など到底行えない。

今回のフィールドスクールでは、研究者と現地活動家や地域住民との間の関係を深く考える機会が多かった。フィールドスクールに関わった村の人々、現地活動家、研究者たちから、率直に意見を述べ合うことの大切さと率直な意見をぶつける勇気を教わった。フィールドスクールで学んだことの中で最も重要なことは、自らの今後の研究において、現地住民や調査に協力してくれた人々との関係をいかに築くかという点であった。フィールド調査をもとにして書いたものを、自信を持って調査に協力してくれたクウェート人たちに見せたいと思う。



村でお世話になったホストマザー



国連からの援助を受入れ、灌漑システムを整備した村



ホストファミリーの赤ちゃんと  
隣に住む女の子



村の玉ねぎ畑